

ポスター発表 | ポスター発表

2023年5月28日(日) 10:40 ~ 11:20 | グループ2 (85周年記念館大体育室)

被服/住居

| [P-073] 日本人高齢女性における下腿と足の温度感受性

○深沢太香子¹ (1. 京都教育大)

キーワード：高齢者、年齢差、温度感受性、冷覚閾値、温覚閾値

目的 高齢の日本人女性対象として、下腿と足における温度感受性について検討することとした。

方法 本研究では、下腿における4部位と足における12部位の、計16部位を温覚と冷覚の測定対象部位とした。被験者は60歳代と70歳代の計20名であり、60代（10名）と70代（10名）の2群に分けた。実験中の着衣条件は、トップスとショートスパッツとした。実験での温熱環境条件は、気温 29.1 ± 1.1 °C、相対湿度 32.4 ± 7.8 %、風速 0.3 m/sであった。

結果 初期皮膚温と温冷感知覚時の皮膚温との温度差を、それぞれ、温覚閾値と冷覚閾値とした。温覚と冷覚の両閾値ともに、部位による差異は認められなかった。60代の温覚と冷覚の両閾値は、70代のそれらよりも大きい値を示した。これら温覚と冷覚の両閾値は、2群間に年齢による差異が認められたものの ($p < 0.001$)、下位検定の結果、年齢差が認められた部位は少なかった。具体的に、年齢による差異が認められた部位は、温覚閾値の場合は足底の足幅内側と内果の上の2部位のみであり、冷覚閾値の場合は腓骨頭の下腿後ろの1部位のみであった。ヒトの温度感受性は、温覚よりも冷覚が鋭敏であることが報告されているが、対象部位における冷覚と温覚の閾値より、60代の冷感受性は温感受性よりも高かったのに対して、70代の冷・温感受性は同程度であった。